

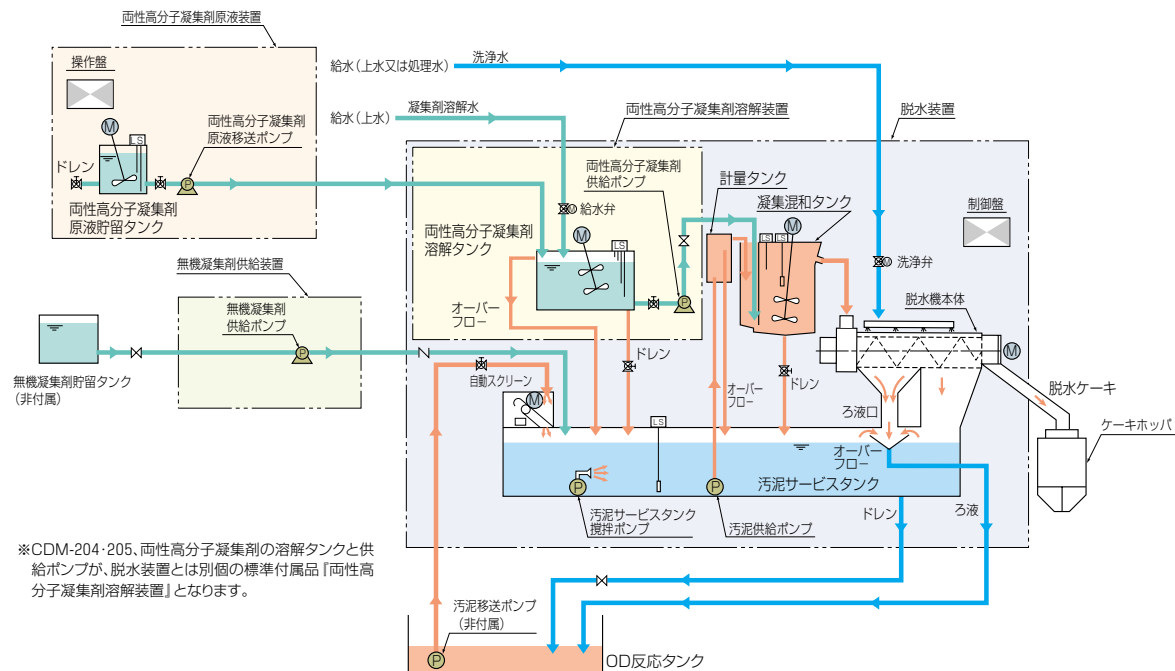
CDM型



- 小規模下水処理場のOD反応タンク内、低濃度汚泥を直接引き抜き脱水処理します。
- 従来施設で必要であった汚泥濃縮槽、貯留槽が不要となるため設備の簡素化が図れ、建設コストの大幅な低減が可能となります。
- 汚泥濃縮槽、貯留槽における作業が不要となる上、装置は連続無人運転が可能となるため、維持管理の簡素化・省力化が図れ、ランニングコストの低減が可能となります。
- 低出力で共通ベース上に関連機器と動力制御盤がコンパクトに搭載されており、据付・配管及び電気工事が容易です。

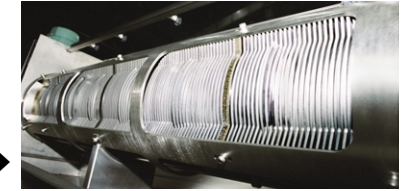
- 当社多重円板型脱水機で培ったセルフクリーニング機構により、従来脱水機では困難であった低濃度汚泥の安定した脱水性能を実現しました。
- 好気汚泥を処理することからも臭気が抑制でき、脱水機本体の運転時も低騒音で低振動。さらに目詰まりしない構造のため、洗浄水も極めて少量です。
- 回転部が低速なため、日常のメンテナンスもほとんど不要です。

■フローシート CDM-201・202・203型



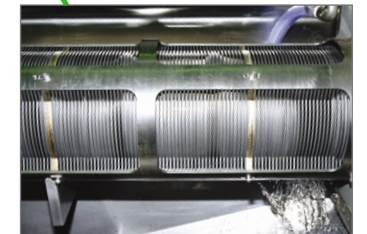
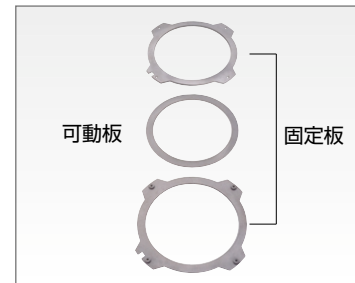
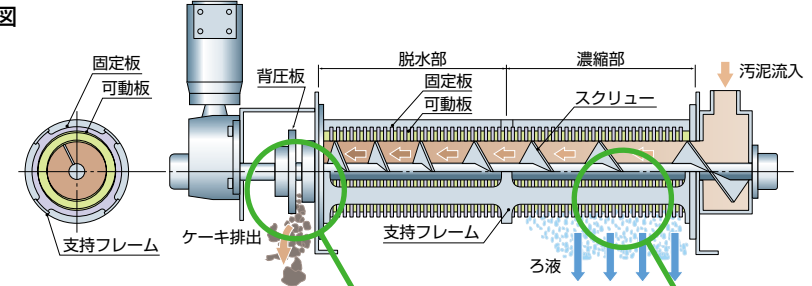
■機構原理

ティーボーグ®脱水機CDM型は『スクリー軸』の外周に、一定のクリアランスを設けながらリング状の『固定板』と『可動板』を交互に積層した多重構造となっており、その多重構造部を支える『支持フレーム』、及びスクリー軸端部の『背圧板』等から構成されます。



高効率を可能にした可動板内周摺接構造

■本体内部構造図



■可動板内周摺接方式

可動板はその内周面と回転するスクリー羽根外周面が接することにより、常に可動してろ液の通過エリアとなるクリアランスがクリーニングされるため、目詰まりを起こさず安定した処理能力を発揮します。

■脱水工程

スクリーにより搬送される汚泥は、スクリーピッチが進行方向に向かって狭めてあることから順次圧縮を受け、端部の背圧板でさらに圧縮を受けた後、機外へ排出されます。

■濃縮工程

脱水機本体に流入した凝集汚泥は、その大半の水分が多重構造部のクリアランス（固定板と可動板の間隙）から重力ろ過により機外へ排出されます。

■標準仕様

型 式	処理量 kg-DS/h	寸 法		動力 kW	質量(重量) 乾/運 t
		長さ(L)	幅(W)×高さ(H) mm		
CDM-201	6~8	2500	1400×2200	1.975	1.5/2.4
CDM-202	12~16	2500	1700×2200	2.175	1.8/3.1
CDM-203	18~24	2500	2000×2200	3.075	2.1/3.8
CDM-204	24~32	2800	2100×2300	3.925	2.4/4.2
CDM-205	30~40	2900	2200×2300	4.125	2.7/4.7

対 象 汚 泥	対象汚泥濃度:0.2~0.4% ケーキ含水率:83WB%以下 固形物回収率95%以上
凝集剤添加率	無機凝集剤 対固形物15%以下+両性高分子凝集剤 対固形物3.0%以下

- 寸法と質量は脱水装置のみの値、動力は付属装置を含めた値となります。
- 構成機器 ①脱水装置 ②両性高分子凝集剤原液装置 ③無機凝集剤供給装置 ④両性高分子凝集剤溶解装置（204・205型のみ、201~203型は脱水装置に内蔵）
- 寒冷地仕様の対応もいたします。別途お問合せください。